

広島別院だより

Vol.42
秋号真宗大谷派（東本願寺）
広島別院教化委員会 発行

秋彼岸会が勤まる

九月一十六日に秋彼岸法座が勤まりました。法話は東白島町円光寺の谷川法海師（山陽教区聞法伝道塾修了生）と呉市得藏寺の高橋仁誓師です。以下、法話の抄録です。

【谷川法海師法話】

●私を解放する念仏

親鸞聖人の門弟唯円は悩みを抱えていた。かつて念仏申して浄土に往生出来るという喜びが満ち溢れていたはずが、次第に喜びが失せ、浄土に参りたいという心も無くなってしまった。その気持ちを親鸞聖人に打ち明けたところ、聖人の言葉は意外なものであった。「唯円よ、お前もそうであったか」と。更に聖人は「本来、喜ぶべきことを喜べないのは煩悩のためである。しかし、その煩悩に苦しむ我らを仏は殊に憐れむのだ。だから我らの往生はすでに定まっているのだ」と語られた。

「私はいつもあるべきだ」「世間はこうあるべきだ」と自分を縛る我の心を放つことを教えた。それは単に教えを聞くだけではなく「我たたきを解放するのである。

【高橋仁誓師法話】

●念佛申す!! 我が身に聞く

浄土真宗は「聞く」ということを大切にしてきた。それは単に教えを聞くだけではなく「我たたきを解放するのである。



谷川法海 師

が身」に聞くことである。この身を通して出てくる念仏は内から聞こえてくる仏の声であり、耳を塞ぐことも誤魔化すことも出来ない声なのである。それを「聞名」と言う。

●何のために生まれてきたのか?

人には避けて通れぬ「生老病死」の四苦がある。「生苦とは何のために生まれて来たのかが分からないことだ」と教えられ、ハッとしたことがある。寺に生まれた私は父が存命中、反抗心から「誰も寺に生まれたいと思つとらん!」と言つたことがある。その言葉が今も爪痕のように心に残っている。父の死後、黙つて聞いてくれていた親がいたことに気づかされる。今思えば、何のために生まれてきたのか分からぬといつ苦惱が言わせたのかもしれない。

●私の願い

仲野良俊師の言葉である。

「仏はこう教えられる。お前の心をもっと深く見てみよ。確かに損が嫌いで得が好き、苦労が嫌いで楽が欲しい、それしかないだろう。しかしその心のもう一つ奥に、自分でも気づかない深い所には、本当に意味のある事なら少々損しても良い、本当にやり甲斐のある事なら苦労も構わぬ、そういふ心があるに違いない。それがお前の本当の願いである。それが見つかるために苦楽や損得に走り回っているのではないかと」

●阿弥陀仏の願い

人には生まれながらの深い願いがある。その願いとは、「誰にも代わってもらひ必要も、誰と比

べる必要もない、私が私であつて良かった」という人生を生きたいといふ願いである。仏は私の中に深い願いがあることを私に先立つて見抜き、その願いに気づくことを願つておられる。その仏の願いが「南無阿弥陀仏」となつて私の口から出でくださるのである。思えばこの彼岸法座という場があるのも、先人たちが仏の願いに自己の本当の願いを聞き取ってきた歴史があるからだ。その歴史を今私たちも歩ませて頂いているのではないか。



高橋仁誓 師

広島別院団体参拝

お参り頂き誠に有難うございました。

十月三日 四国教区東讃第一組



現在、広島別院を会場に毎月、子ども食堂が開かれております。加藤代表（門徒有志）を中心に芸南組の有志スタッフが参加し、毎月一回開催し、5名～10名の近隣の子供たちが来場してくれています。

親鸞聖人の生涯を辿る

教団批判

法然の説く専修念佛の教えは、民衆に広まり、多くの門弟が教えに帰依しました。一方教団が拡大する中で、法然の教えとは違う主張をしたり、先鋭化したりする者も出てきました。念佛によつてどんな人も救われるのだからどんなことをしてもいい、という造悪無碍の考え方や、専修念佛の教えこそが救われる道であり、他宗の教えは難行で無意味であるとして、既存佛教の教えや修行を批判するものが出来ました。

比叡山延暦寺は法然教団に対して抗議をしていましたが、二〇四年（元久元年）には専修念佛停止を訴える決議を行いました。これに対して、法然は七箇条制誡を作成して禁止事項を定め、弟子に署名をさせて守らせるようにしました。しかし弟子の中には却つて放言をしたものが出てきました。そこでさるに一二〇五年（元久二年）にはいわゆる興福寺奏状が朝廷に提出され、法然の教えに理解を示していた朝廷は、既存佛教との板挟みで苦しむことになります。

法座・講座等のお知らせ

12月6日(水)・7日(木)報恩講

【講師】勝間 海先生（笠岡市 光明坊）
寺川大雅先生（庄原市 西願寺）

【日程】6日（水）14:00～勤行と法話 16:30～御伝鈔拝読
7日（木）8:00～勤行と法話 10:00～勤行と法話

親鸞聖人のご祥月命日を縁としてお勤まりになる浄土真宗で最も大切な法要です。
お誘いあわせの上、お参りください。

12月23日(土)仏教入門講座

【講師】^{ましろよしまる}真城義麿先生 【次回2月3日(土)】
【日程】毎回 13:30～16:00 【会費】500円

〈日常生活の様々な疑問を佛教に学ぶ講座です。ぜひご参加ください。〉



毎月5日 定例法話（ご命日の集い）

【講師】県内僧侶（月替わり）【日程】14:00～勤行と法話（15:00 終了予定）
〈広島別院開基 教如上人の御命日（毎月5日）に法話会があります。〉※1月は休みです。

道場樹

【編集室より】

今夏は記録的な猛暑だった。とは言え、毎年記録が更新されているので、国連事務総長の言う通り、既に地球温暖化は終わり、地球沸騰の時代に入っているのだろう。ところが私個人的には近年、夏バテをしない。なぜだろうか。お参りする御宅の仏間にもエアコンが備えられているからだ。三十年近く前に広島の寺に帰り、門徒宅に参り始めた頃は、必ず盆過ぎに夏バテしていた。当時は普段生活しない仏間にエアコンがないのは当たり前で、汗だくになつて勤行をしていたものだ。今やエアコンのある家が増えたおかげで夏バテすることも無くなつたのだろう。自宅に帰つて家中を見回すと、過去三十年の間にどれほど電化製品が増えたことか。エアコン、テレビ、パソコン、携帯電話…。夏バテと引き換えに今日も地球を沸騰させている私は、生活習慣だろか、なぜか常に何かのリモコンを手にしているのだ。

(H・N)

真宗大谷派(東本願寺)

広島別院 明信院

〒730-0044 広島市中区宝町4-16

TEL 082-241-5342 (電話・FAX共通)

東本願寺 広島別院

検索

